

郷土文化財紹介

石造物シリーズ

< 霊神碑と御岳信仰 >

坂下地区の各所で趣のある自然石に「〇〇霊神」と線刻された石造物が見られます。ほとんどが御嶽信仰と関わる記念碑です。



← 覚新霊神碑
大門島井田墓地内
たいへんに熱心な御嶽行者で登拝88回
を数えるという。
昭和34年、吉村利彦氏建立
90×40 自然石板碑

「坂下町史(16年版)」御嶽講の項には、御岳信仰が坂下地区で大変盛んであった事が記されています。御嶽山を霊山とし先達(行者)に伴われ頂上の奥宮をお参りし、お札をいただけてきます。この先達には高部の派と外洞の派と合郷の派と3つぐらいの派があるようです。1800年代から始まり1900年代中頃までたいへん盛んであったようです。衰えてきているようですが、

《高部の一派》

1800年代初め頃には坂下でも御嶽講ができ行者・修験者の活動が始まったのではないのでしょうか。明和8年初冬(1771年)建立の伝説的行者役小角(えんのおずぬ)座像が握観音堂脇にあます。また、坂下で最も古い霊神像は高部<神変(しんぺん)講社>内にある信明行者像です。表に「阿闍梨信明行者」、裏に「文久二(1862)壬戌三月一六日林橘政長」と記されます。そして「百年祭記念信明霊神」なる石

今も活動があり特定の場所で御座儀礼(おぎざれい)が行われ、個人宅には御岳信仰に関わる祭壇がありお札を迎えて祀ってられます。霊神碑とは、この案内役の行者、修験者で御嶽山登拝を何十回と繰り返し修行を積み霊験あらたかな指導者として講員の生活指導などをよく行った功績を讃えて建てられた記念碑です。

御嶽信仰各種説明文によると御嶽山登拝は古代より行われていました。1700年代後半天明の時代に尾張国春日井郡出身の覚明行者(かくめいぎょうじゃ)が数十名の信者を引き連れて登拝を繰り返し黒沢からの登山道を整備し、武蔵国秩父郡出身の普寛行者(ふかんぎょうじゃ)が王滝口から登拝し道を整備しました。二人の行者の登拝道整備をきっかけに御嶽信仰は各地で行者を中心に御嶽講がつくられ普及し登拝も盛んになりました。恵那山も覚明行者等が開山した霊山の1つに数えられています。



← 法彦院(ほうげんいん)義彦碑
高部神変講社内
古井近市建立 年月不明
御嶽登山四十二度
俗名 古井彦三郎
100×78 自然石板碑

→ 阿闍梨信明行者像
高部神変講社(御岳神社)内
坂下で最も古い御嶽行者像
文久二年(1862年)
林橘政長建立
74×50 花崗岩川原石
光背内浮彫



碑が昭和36年(1961年)に建立されているので、阿闍梨信明行者は文久元年(1861年)に入寂したことになります。阿闍梨は密教でかなりの修行を積んだ僧侶の位であるので坂下では金龍山三井寺の住職と関わりのある修験者(僧侶、行者)であったのかもしれませんが。また、ここに名のでる「林政長」は文久元年に御岳行者の導きで八重梅天神を再興した人物です。林政長もまた神変講社に属し御嶽信仰に力を入れていた人といえます。林喜代八、後の実利行者もこの頃20才で御嶽教に熱心に取り組んでいました。広辞苑などではなく神変(しんぺん)とは人間業とは思えぬ不思議な力を持つ様を表すとあります。人間業とは思えぬ不思議な力を身につける修行はたいへんな魅力があったのでしょうか。



← 貴徳院の霊神尊像
高部神変講社内 明治22年建立
願主 桂川八右衛門、原斧吉
早川幸次郎
47×42 安山岩丸彫り座像

神変講社内には、他に霊神尊像が「貴徳院」(明治22年建立、俗名吉村長太郎)、「覚龍院」(大正15年建立)、「覚誠院峯安」(昭和59年建立)の3体、霊神碑は「実利霊神」など7体ほどで昭和30年代半ば(1960年ごろ)に建立されたものです。旧農協ガソリンスタンド後方にも「峰礎霊神」(明治3年建立、俗名加藤嘉吉)があります。これらの霊神碑から分かることは、行者が地元から遠方出身者と広く大勢いたようです。彼らは御嶽登山40～50回と大峰山や聖護院修行者で、非常に多くの信者を集めて講は盛んであったようです。神変講社境内はよく整えられており、今も4月の祭が近所の人達により守られてきています。

→ 鳳妙院(ほうみょういん) 松安
俗名 道家松太郎
羽島郡出 昭和15年当地へ
御嶽山参籠6年登拝50回
昭和35年神変講社建立
118×63 自然石板碑



《合郷の一派、町組の一派》

合郷の「隆廣霊神」の碑は時鐘消防署の向かいにひっそりとあります。昭和11年(1936年)の建立です。霊神碑裏に碑文が刻まれ、名を元三郎といい握で安政2年(1855年)に生まれ19才(明治6年・1873年)で神の道に入りとあります。おそらく高部の神変講社でしょう。明治8年(1875年)合郷早川清三郎の養子となり夫婦共にその講に参加していました。信心をいっそう深め「隆廣」の称号をいただき、薬草係としてよく調薬しました。その後も川行などさらに厳しい修行を積み世の人々を助けたと伝えられています。時鐘自

治会には「隆廣」の「隆」をいただき名付けられた人達が数名おられるそうです。



← 隆廣霊神碑
時鐘五升蔭観音堂脇
昭和11年建立
裏に霊神の賛が刻まれ、
発起人19名の名が見える。
147×57 自然石板碑

合郷ではこの他に「実利行者供養塔」(時鐘、明治23年6月)、「勇明霊神」(時鐘、昭和9年建立、静岡出身)、「覚田霊神」(大門、昭和27年5月建之)、「覚新霊神」(大門、御嶽登山88回記念、昭和34年建立)があります。



←勇明霊神碑
時鐘原氏宅地内
昭和9年建立
静岡県出 長濱勇角之丞
68×40 自然石

町組では相沢の半憎坊が知られていて、「貴鳳霊神」の碑が見られます。この霊神碑は「昭和36年神変講社建立」とあり、それ以前「明治45年に銅製霊神像を建立したが昭和18年応召供出」してしまったことが併記されています。近くに「御嶽登山四十度 明治二十一歳 原直吉」の記念碑、「役行者」座像が見られ、裏に「明治

十七年申三月吉日原直吉義徳」とあります。このことから半憎坊の御嶽講も高部神変講社から出ているようです。直吉翁は江戸期末の生まれとされますので高部の実利行者や合郷の隆廣行者との交流があったに違いありません。

→貴鳳霊神碑
相沢半憎坊 昭和36年神変講社建立
明治45年に銅像を建立したが応召され供出してしまったことを記す。
90×52の自然石



高部の神変講社内に祀られる「貴徳尊像」と対になる「霊神碑」は、上鐘墓地の中に見られ「慧光道印法者 貴徳院 明治二十二歳三月八日 俗名吉村長太郎」とあり、説明板に頭痛をよく治すと記されます。貴徳行者と貴鳳行者は師弟関係にあったのかもしれません。

《外洞の一派》



↑法力屋教会脇にある2体の霊神碑
左は「若富霊神」昭和11年建立
右は3霊神碑「八清霊神 覚勇霊神 八頭女霊神」昭和16年建立

外洞には「若富霊神」(中外、木材寄進、昭和11年建立)、「八清霊神・覚勇霊神・八頭女霊神」(中外、昭和16年建立)が

あります。

この地域も御嶽信仰が盛んであったと思われます。御嶽山法力屋教会があり、覚明霊神書の掛け軸を保存されているとのこと。代々使用してきた法螺貝を見せてもらいました。2代の斧吉行者(安政5年～昭和3年)は、神変講社内で「貴徳院尊像」の願主として名を連ねています。修行を積み「原明霊神」として墓地に祀られます。



←法螺貝
代々受け継がれてきたものです。

1月、2月の寒中には坂下のあちこちへ出かけて「やぎとう(家祈祷)」を熱心に行

い、坂下中の平安を祈願されました。その折には家族全員でお札作りを行っていたそうです。また、4月には法力屋教会で50人余の人達が集まり盛大な祭りが行われていたと聞きます。

思い起こせば、町組乙坂のわが家へも2月の寒い頃に法力屋教会の行者と従者を迎えていました。座敷の床の間に祭壇を設け御座儀礼が行われました。儀礼が始まると年寄りと一緒に儀礼の席に着かされ怖い思いを何度かさせられました。行者は般若心経を唱え徐々に神がかってくると体を震わ

せブツブツといい、携えている刃物がポンと飛び出したりします。私には何をつぶやいているか分かりませんが、主はあらかじめ家内安全などの願い事を伝えていて、その願いが叶うか否かの回答が従者を通して伝えられたのでしょうか。主はそれなりに納得していたように思われました。さらに10種類ぐらいの神札をいただきますが、後日この札をあちらこちらへ貼り付けて回るのが私の仕事でした。主は直会を催し行者一行をもてなし宿泊してもらい、行者は翌朝次の家を訪問していきました。

《実利行者のこと》

坂下で行者と言えば「実利行者」について述べねばなりません。後呂忠一著「実利行者と修験道」を基にして話を進めさせてもらいます。

実利行者は坂下村高部で天保14年(1843年)小栗宗賢と林鷹の次男として生まれ、名は林喜代八と幾つかの書物に記されています。また、20才の頃(1863年)には父親の影響で御岳信仰に熱心になっていたようです。文久2年信明霊神像を建立した林政長との関わりも考えられます。何名かの信者と御岳山に登拝しお告げを聞き、20代の前半で故郷高部を出て厳しい修行に入ったようです。ついに奈良吉野の大峰山に入り20年間に千日行というさらに厳しい修行を7回も行ったと言われています。明治の神仏分離令の後、明治5年(1872年)修験道は禁止されますが、これに猛反対をして投獄されるということもあったようです。こうして吉野大峰山の奥駈道には実利行者の足跡が多く残されているそうです。山の修行では麓の村民に助けられ、山を下りては村民の病苦を癒やし、奥駈道の修理をするなどと村民と親しく交わり尊敬されていたそうです。有栖川宮、聖護院などとの繋がりもでき「大峰山二代行者実利」の称号を賜っています。伝説の役行者を一代として役行者に次ぐ優れた行者を意味する称号です。



←役行者座像(大峰山一代行者)
握観音堂脇 明和8年(1771)建立
三井寺有春と10名の願主名を刻む
73×40丸彫り座像



→実利行者座像(大峰山二代行者)
高部実利教会境内

明治11年(1878)7月からの巡礼修行は本人による「旅日記」として残っていますが、猛烈なスピードで行われました。

《7月中旬坂下上野を出立、郡上を経て白山室堂に籠もり、8月13日金沢から富山へ入り立山の室堂で座禅する。8月中長野に入

り17日戸隠、翌日善光寺を詣で、上田、諏訪、甲府、河口湖と進み8月25日富士登山を行った。ここで2日修行して8月末神奈川に入り鎌倉、横浜を経て東京に入り9月10日成田山、11日鹿島神宮を参詣した。足尾山、加波山を経て20日には日光山へ出る。23日福島に入り奥州街道を北上し10月には山形に入った。出羽三山の湯殿山と羽黒山を制した。》「旅日記」は10月13日でひとまず終えています。しばらく不明な時がありますが、11月28日石巻から「旅日記」が再開されます。《12月31日千葉桜井村で祈祷を5日間行った。房総半島には明治12年2月20日過ぎまで居て、3月上旬には藤沢、小田原、箱根を経て7日名古屋に着く。そして坂下へ帰った。》およそ230数日で厳しい修行繰り返しその合間に祈祷し苦しむ人々を救済しています。

このころ父親が病に伏せており坂下で看取をします。明治13年7月17日父宗賢が他界し、11月高部南西山裾林家の墓所に舍利塔を建立します。後に坂下ではこの地を「塔様」と呼ぶようになるようです。また、この年「仏生講(千人講)」が結成されますが、坂下のほとんどの家がこの講に参加し集落ごとに講社をつくり活動したようです。坂下では神仏分離令以来寺の消失と神社の統合があり信仰の場が失われていたのではないのでしょうか。

→実利四十一才の肖像
上北山村岩本泉治氏所蔵
後呂忠一著「実利行者と修験道」より



最後、実利行者は40才の春(1842年)から奥大峰山に入り夏行し冬には那智の滝で寒行します。この苦行を3年間繰り返し42才の春(1884年)、明治17年4月21日捨身修行をもって万民の苦悩を一身に引き受けられました。

御嶽登拝から始まる修行をひたむきに追求し、万民の幸福を願った非常に優れた行者です。坂下の誇るべき行者と言えます。

その後、各講社の力を結集し明治35年(1902年)「実利之碑」が舍利塔と並び建立されました。昭和15年(1940年)には吉村好源義鳳院等が中心となり実利協会がつくられ、今も毎年命日に祭が盛大に行われています。



↑実利之碑
高部実利教会内 明治35年建立
舍利塔と父母の墓碑の間に苔むした
実利之碑がある。
表に実利行者の賛が刻まれる。
132×154 玄武岩山石板碑

各所に点在する

霊神碑・霊神尊像



←覚田霊神碑

大門島井田地内
昭和27年5月建立



←先平霊神尊像

高部実利協会内
大正3年建立
長野県上伊那郡伊那町出
64×72丸彫り座像



←峰礎霊神碑

旧農協カソリンスタンド裏
明治3年建立
和州金峰山麓没
俗名 加藤嘉吉貴清
94×52自然石



←左京霊神碑

西方寺木曾川堤防道路内側
明治25年建立 小林助五郎
幕末神仏分離、神葬祭齋行で苗
木藩より三井寺住職改め神官に
任命さる。寺子屋運営。
川原石線刻

《覚明さんのこと》

Hiro's Homepage by Hiroshi Hasegawa 「牛山歴史物語 “御嶽山と覚明さん”」より

覚明は享保4年(1719)春日井市牛山で生まれ、30代半ばごろ弘法大師に憧れ高野山で真言密教を学ぶと共に四国八八カ所巡拝を繰り返し10数年が過ぎました。明和3年(1766)48歳の時木曾御嶽山開山のお告げをうけ木曾を目指した。途中明和4年(1767)恵那山を切り開き、山上で17日間断食修行をしました。下山後中津川の地域で祈祷や薬草を用いて人々の病苦を癒やし、名を広めて行きました。裏木曾から小坂、開田へと進み、修行に励みながら地元民のために祈祷し、薬草や農業のことを教えました。